

# 4年生看護学生における職業準備性

清水 房枝<sup>1</sup>, 久田雅紀子<sup>1</sup>, 種田ゆかり<sup>1</sup>, 井村 香積<sup>1</sup>, 窪田 好恵<sup>2</sup>

## Occupation preparation in the fourth grader nursing student

Fusae SHIMIZU, Akiko HISADA, Yukari TANEDA, Kazumi IMURA and Yoshie KUBOTA

**Key Words:** Student nurse, Occupation selection, Occupation preparation, Nurse image of ideal

### I はじめに

保健師助産師看護師法及び看護師等の人材確保の促進に関する法律の一部を改正する法律は、平成22年4月1日から施行された。今回の改正のポイントは、卒業後の臨床研修の義務付けや研修は看護職の責務として位置づけられた。新人看護師をめぐる問題や課題は多様であり看護基礎教育に求められるものも大きい。こうした中で、2008年2月の報告では、病院看護職員の離職率が12・4%（全国平均）であるのに対して、新人看護職員の離職率は9・2%（全国平均）であり、職場定着を困難にしている要因は、看護基礎教育終了時点と看護現場で求められる能力のギャップや現代の若者の精神的未熟さ、従来に比べ看護職員に高い能力が求められる（日本看護協会調査）とある。新人看護職は就業と同時に、組織内社会化と専門職の社会化と2つの社会化の統合を求められる。（看護専門職への社会化への時間）看護職への社会化は、看護教育機関への入学と同時に看護学生として看護職への予備的社会化が始まる。予備的社会化をどのように過ごし考えていくか教育の方向性を示唆する必要がある。

専門性のある大学を選択した看護学生が看護職に就くことに、現実感を持って捉えるようになるのはいつ頃であり、また看護を自分の職業として決定する理由は何であるか。看護職への意識のありようは入学から卒業までの間どのような変化があるのか。看護学生はどのような看護師を理想として、その理想像は何の影響で創られたものであるか。学生時代に専門職に就くことに対して準備がどのようになされるのか、看護職への準備性を明らかにすることにより、看護職に就く

関わりをよりよく計画的におこなうことができる。

本研究では、まず就職活動期の4年生の看護学生の職業準備性を明らかにするために4年生大学に在籍する看護学生に質問調査を行いその実態を明らかにすることとした。

### II 研究方法

#### 1. 調査対象・調査方法

調査対象はA大学医学部看護学科に在籍する4年生の学生に研究の主旨や方法を説明し同意の得られた学生30名である。学内講義終講後、研究の主旨を説明して同意を得た。倫理的配慮として記述した調査趣旨説明に回答は任意でありプライバシーは守られること調査内容は匿名であり学術研究以外は使用しないことを文書と口頭で説明した。調査期間は2009年7月～10月。

#### 2. 調査内容

看護職への関心や現実性、限定性、主体性を見るため若林らの“職業レディネス尺度”参考にし（掘 若林 1999）、1. 職業選択・決定についての価値観を同考えているか、2. 看護職についての関心や看護職の価値をどう考えているか、3. 理想の看護師像についてインタビューガイドを作成し現在の自分に当てはまるものを話してもらった。3の理想の看護師像は自由に話してもらい内容の分析はKJ法を用いた（理想の看護師像については1年生30名に聞いた内容も記載）。

1 三重大学医学部看護学科

2 元滋賀県済生会看護専門学校

### 3. 分析方法

あらかじめ設定したテーマに基づき得られたデータ内容から類似したものを数量化した。

## III 結果・考察

### 1. 職業選択・決定について

職業選択・決定についての価値観は表1に示した。「職業選択は人生において価値が大きい」は25であり、「職業選択は納得がいく判断が大切」については28であった。学生の職業選択は人生において価値が大きいと捉え、納得のいく判断を重んじていることが伺える。「職業選択は運による」については1であり全体の5%にも満たない。統計数理研究所国民性調査委員会：第5日本人の国民性戦後昭和期総集によると、同様の質問に4割の日本人が「運」と答えている。変化の激しい現代社会に生きる若者の現実主義的特長といえる。「就職についての話題が気になる」は22名の学生が回答し、自分の今後の人生を左右する就職について意識している。「何をしたいかわからないため自分を見つめなおしたい」と回答した学生は4で13%であった。4年生になり就職活動をするにあたってどのような病院を選択するのか何をしたいのか迷っている学生の様相が伺える。

以上の結果から、学生は職業選択・決定を人生において価値の大きいものとして捉え、納得のいく判断を要すると考えていた。

表1 職業選択・決定についての価値観

職業選択は人生において価値が大きい	25
職業選択は納得が行く判断が大切	28
職業は運による	1
就職についての話題が気になる	22
何をしたいかわからないため自分を見つめなおしたい	4

### 2. 看護職についての関心・認める価値について

1) 医療・看護に関する関心についての結果は表2に示した。「医療関連ニュースが気にしている」と「看護への話題が気になる」は両方とも28学生であった。9割強の学生は医療や看護関係のニュースに関心を持ち、看護の話題を気にしている。「看護職に就くための知識・技術の修得に努力をしている」については24であり「看護に対しておもしろさを感じている」は16であることから、医療や看護関係のニュースに関心を持ち、看護の話題を気にしていると同時に関心の高さを伺わせる。「看護師希望ではなく偏差値で本学を選択した」と回答した学生が

4あり、入学動機は約13%の学生は偏差値から本学を選択している。同様の質問に関して、看護師志望強度の調査結果から「看護師になりたくなかった」と回答した学生が20%いることが報告され（河村2000）、看護師のキャリア形成に関する研究では、やはり「看護師になりたくなかった」と回答した看護師が3割強であることを述べている（土屋1985）。このことから考えるとこの結果は特別な数値ではないと考えられる。「看護師に関心が無くおもしろくない」について回答した学生は1であり看護師に関心を持っている学生が圧倒的に多い。

以上の結果から、学生は医療看護についての関心を持ち、看護職につくための知識・技術の習得に努力をしていると考えられる。また、入学時に看護師になりたくなかった学生は今までの調査研究に比して少なく、4年生になり今までの過程において看護学生として専門科目を学び実習を体験してきたことで医療や看護に関心を持ち知識や技術を身につけようと努力していると考えられる。

表2 看護職についての関心・認める価値  
(医療・看護に関する関心)

医療関連ニュースを気にしている	28
看護の話題が気になる	28
看護職に就くための知識・技術の修得に努力している	24
看護に対して面白さを感じている	16
看護師希望ではなく偏差値で本学を選択	4
看護に関心が無くおもしろくない	1

2) 看護職に就くことの現実性についての結果は表3に示した。「看護職は自分に合っていると思う」と答えた学生は9で、看護職が自分に適していると捉えている学生が少ない。しかし「看護師になるため足りない知識や技術を学びたい」と24と8割の学生が看護師になるための知識や技術を学ぶ姿勢を示している。看護職に自分が適していると考えていない学生も学ぶ姿勢を示していることがわかる。「看

表3 看護職についての関心・認める価値  
(看護職に就くことの現実性)

看護職は自分に合っていると思う	9
看護師になるために足りない知識や技術を学びたい	24
看護職を自分の主体性で選んだ	20
看護職を人に進められて選んだ	5
このまま何となく看護職に就けそう	18
看護職に就くことに現実感がない	4

「看護職を自分の主体性で選んだ」については20の学生が回答し「看護職を人に進められて選んだ」は5の学生が回答した。自分で選んだ学生は自分の職業選択の意思が強いことを示しているが、人に進められて看護職の道を選んだ学生も職業選択を最終的に自分で意思決定したことになり、自分の職業選択を主体的に行っていると考えられる。「このまま何となく看護職に就けそうだと12の学生が回答した。看護職になっていく見通しを持っている学生が6割弱であり「看護職に就くことに現実感がない」と回答した学生は4であった。見通しを持っていない学生が1割強であった。

以上の結果から、自分が看護職に適していると考えている学生は少ないが、多くの学生が看護師になるために知識や技術を学びたいと考えていた。8割以上の学生が自分の職業決定を自分で行い、主体的に看護職に就くための意欲を持っていることが考えられる。しかし、半数以上の学生は、将来の見通しとして現実感を持っていることは4年生となり就職活動が始まり、より現実的な状況になっていることが考えられる。

3) 看護職への限定性についての結果は表4に示した。「看護師になりたい」と回答した学生は22で保健師・助産師・看護師のいずれかになりたいと回答した学生は4で看護職になると考えている学生は26で8割強であるが「看護職以外の医療職になりたい」と回答した学生は2。「医療職以外になりたい」と回答した学生は1であった。「どの職業に就きたいかわからない」と回答した学生は1であった。4年生は就職を決定する時期ではあるが、他にやりたいことや迷ったまま学年があがってきた学生が存在していた。

以上の結果から、8割強の看護学生は、就きたい職業は看護職であると限定しており自分の意思を明確に持っていた。

表4 看護職についての関心・認める価値  
(看護職への限定性)

看護師になりたい	22
保健師・助産師・看護師のいずれかになりたい	4
看護職以外の医療職（医師・理学作業療法士・他）になりたい	2
医療職以外になりたい	1
どの職業に就きたいかわからない	1

4) 看護職の選択理由についての結果は、表5に示す。「人とのふれあいを得たい」「人の健康に後見したい」「新しい知識を得たい」などが8割を示し、「就職先がある」「経済的余裕を得たい」は5割強であった。また「社会的地位を得たい」は2割を示した。

以上の結果から、看護職を選択する理由に8割を占めた「人とのふれあいを得たい」「人の健康に後見したい」「新しい知識を得たい」は看護職の特性や社会貢献など4年生になるまでの過渡で多くの授業や実習で学び得た結果からであると考えられる。また、「就職先がある」「経済的余裕を得たい」は現在の経済状況から雇用の問題などから就職することに価値を置く学生の1社会的側面が伺える。

表5 看護職についての関心・認める価値  
(看護職の選択理由)

就職先がある	18
人とのふれあいを得たい	25
人々の健康に貢献したい	23
経済的余裕を得たい	16
新しい知識を得たい	25
社会的地位を得たい	7

職業選択・決定についてと看護職についての関心・認める価値についてまとめると、4年生になった学生は職業選択や職業を決定することは人生において価値が大きいものであり、納得のいく判断をしようと考えていた。看護職についての関心や看護職への価値については、殆どの学生は関心や興味を持ち、看護職に就くための知識や技術を学び努力していた。

医療・看護についての関心については、学生は医療関連ニュースや看護の話題について関心を持ち、看護職につくための知識・技術の習得に努力をしていたことから、看護職についての関心は大きいと考えられる。また、自分が看護職として適していると考えている学生は3割であり、自分が看護職として適していると考えていなかったが、8割の学生は看護師になるために足りない知識や技術を学びたいと考えていた。これは適していると考えていない学生も看護職への関心や現実性が伺える。このことについては、職業についていない段階での適正を伺い回答を得ることは困難であるとも考えられる。看護師になりたいと回答した学生と保健師・助産師・看護師のいずれかになりたいと回答した学生は8割強で看護職に限定して考えていたことから、学生は看護職にその価値を見いだしていると考えられる。このことは看護職の選択理由の中から、

「人とのふれあいを得たい」「人の健康に後見したい」「新しい知識を得たい」などが8割を示し、看護職の特性や社会貢献する医療分野の特性を4年間の学びの中で得たものだと考えられる。また、「就職先がある」「経済的余裕を得たい」の5割強を示したのは現代の社会環境を理解し働くことへの価値を考えている社会的側面も伺えた。

### 3. 理想の看護師像について

理想の看護師像については、4年生を対象としたものと1年生の基礎看護授業の初期に30人の学生に聞いたものを表7に示した。1年生の理想の看護師像の多くは、人と関わる姿勢が丁寧、暖かい話し方、話を良く聞く、話をしっかり受け止める、良いことをほめるなどの「看護職としての関わり」が1位を占め、優しい・明るい・細やかなところに気がつくなど「人としての態度」が2位を占めた。また、頼りになる存在、患者や家族から安心感を持たれ、心の支えになっているなどの「専門職として信頼される」が3位であった。これは、入学試験時にどんな看護師になりたいのかを聞くと返ってくる答えに類似する。

4年生は授業で知識や技術を学ぶと同時に、看護師の態度や知識で得た看護師の技術は実践活動を通して学ぶ機会がある。看護について自分の考えを持つ、仕事に責任を持つ、看護にやりがいを感じる、人間性と理性を持ち合わせている、学習し続ける姿勢や行動力などの「専門職としての誇りやキャリアアップ」が1位であり、知識がある、技術が優れている、観察力がある、判断力がある、個別的ケアが提供できる、自立への援助ができる、他職種と連携した看護実践ができるなど「専門職としてのケア」が2位であった。1年生が3位にあげた「専門職として信頼される」は4年生も3位であったが、1年生より倍以上の回答があった。また、1年生が1位にあげた「看護職としての関わり」は、4年生は4位であり、ほぼ変わらない回答数であった。1年生が2位にあげた「人としての態度」は、1年生の半数で5位にあった。

以上のことから、優しい、明るい、などの人としての態度は入学時には理想の看護師像として主を占めるが、4年生は学びの過程で専門職について知識を深め、看護職としての関わりや専門職として信頼されることに、人としての態度が入っていることを学んでいると考えられる。優しさや明るさなど人としての態度は、欠くことのできない大切なものであり、それらが看護職としての関わりの中の、人と関わる姿勢が丁寧であり暖かい話し方、他者に共感的、話をよく聞くなどであると伺える。また、それらは患者や家族からの信頼

表6 理想の看護師像（自由に語ってもらう）

		1年生	4年生
人としての態度	優しい	12	3
	明るい	5	2
	親しみやすい	1	
	行動的である	1	3
	細やかなところに気がつく	3	1
	誰に対しても公平である	1	1
	笑顔がある	2	
	感受性が豊か	2	1
		27	11
専門職としてのケア	知識がある	2	8
	技術が優れている	1	7
	観察力がある	1	7
	思考力がある	1	4
	判断力がある	1	9
	個別的なケアが提供できる	3	12
	自立への援助ができる		12
	他職種とチーム連携した看護実践ができる	1	5
	家族を支援できる	1	5
		12	57
専門職としての誇りキャリアアップ	学習し続ける姿勢と行動力		4
	日々新しい知識や技術を駆使して看護する		3
	向上心が高く努力している	2	6
	看護について自分の考えを持つ	2	18
	仕事に責任を持つ	2	15
	仕事に誇りを持つ		6
	看護にやりがいを感じる		15
	人間性と理性を持ち合わせている		8
		7	75
看護職としての関わり	人と関わる姿勢が丁寧	5	6
	暖かい話し方	9	4
	人の痛みがわかる	1	9
	患者に向き合う姿勢が共感的	2	9
	話を良く聴く	18	10
	話をしっかり受け止める	18	10
	良いことをほめる	5	4
		58	52
専門職として信頼される	患者や家族、他職種から信頼される		19
	患者や家族から頼りにされる存在	4	12
	患者や家族から安心感を持たれている	6	10
	患者や家族の心の支えになっている	6	8
	自分のことのように親身になっている	4	4
		20	53

を得て頼りになる存在となり安心感を持たれる、専門職として信頼されるようになっていいると考えられる。4年生の学生は理想の看護師像を、専門職として、誇りを持ちキャリアアップすること、専門職としてのケアの提供をすること専門職として信頼されることをあげた。

この結果は、看護師の行動特性を視覚的に捉えていた学生が、学びの過程でより具体的に捉え理想の看護師像として明確化していったと考えられる。看護学生は入学時から学びの段階を得て職業準備性を発展させているのではないかと考える。特に目指す看護師の理想像は専門職者の役割意識を高めていることが伺える。これらから、看護教育は1年生から段階的に行われる教育内容や方法によって大きく影響されることを示唆している。大学の個性を生かした教育が期待される中、教育カリキュラムの変更など求められる課題を駆使しながら教育内容や方法を工夫・創造することが求められていると考える。

#### IV 結論

大学4年生の看護学生が看護職への就職を前に看護職についてどのように考えているのか職業準備性を明らかにするために調査をおこなった。その結果、学生の9割の学生は職業選択は人生において価値が大きく納得がいく判断が大切と捉え、医療や看護について関心を持ち看護職に就くための努力をしていた。また、適正があると現段階では考えていないが足りないところの知識や技術を学びたいとし、8割強の学生が看護職になりたいと限定していた。看護職への選択理由は看護職の行動特性から考えられるもの、医療を通して社会貢献したいと考えるもの、雇用や経済的安定を図るものなど明確な考えを持っていた。

看護学生が思う理想の看護師像は、1年生が思うものより、より専門性が高く看護師の行動特性を視覚的に捉えていた学生が、学びの過程でより具体的に捉え理想の看護師像として明確化していったと考えられる。

以上のことより、看護学生は入学時から学びの段階を得て職業準備性を発展させているのではないかと考える。

#### 文献

- Benner, P (1984) /井部俊子他訳：ベナー看護論-達人ナースの卓越性とパワー、医学書院 1992
- K 川村彰美, 中川雅子, 藤田淳子 (2000) : 看護学生における看護婦のアイデンティティの形成と志望理由・学習進捗との関係, 京都府立医科大学医療短期大学部紀要 10, 91-99,
- T 土屋三千代他 (1985) : 看護婦のキャリア形成過程に関する研究 (1) 成田赤十字看護専門学校, 8-9
- T 統計数理研究所国民性調査委員会 第5日本人の国民性戦後昭和期総集 (1992) : 出先書店 東京
- M 村田節子, 長屋智子 (2000) : 医療人を目指す学生の職業イメージに関する予備的調査 九州大学医療技術短期大学部紀要 27, 15-20

キーワード: 看護学生, 職業選択理由, 職業準備性, 理想の看護師像

